

- F・D・ルーズベルト・メモリアルコンペ [アメリカ]
- ブジョービル国際設計競技 [アルゼンチン]
- 『アーキグラム』創刊 [イギリス]
- V・スカーリー『近代建築』 [アメリカ]
- J・ジェイコブズ
- 『アメリカ大都市の死と生』 [アメリカ]
- B・フラウ『世界計画のプログラムのために』
- 発表 [アメリカ]
- 八田利也『現代建築愚作論』
- 『持ち家政策』住宅ローン制度化
- 国立国会図書館新庁舎開館
- 『ル・コルブジュエ』展 [国立西洋美術館]
- ★『アッサンブラージュの芸術』展開催
- [MoMA, アメリカ]
- [文学] S・レム『ソラルスの陽のもとに』 [ポーランド]
- ◆ J・F・ケネディ、第35代アメリカ大統領に就任
- アメリカがキューバと国交断絶
- 東ドイツ、東西ベルリンの境界に壁を構築
- ガガーリン、世界初の有人宇宙飛行 [ソ連]

1962

- P・メイモン『浮かぶ都市』
- 『セヌ川の地下都市計画』
- Y・フリードマン『空間都市計画の10の原理』
- W・ビッヒラー『地中都市』
- W・ビッヒラー+H・ホライン『絶対建築』
- A・ロッシ『対独抵抗運動記念碑』
- R・アブラハム『巨大な構造体』
- F・オッター『未来の小さな都市』
- P・ゼクリ+P・ブリード『精神の街』
- A・クアムビー『トウモロコシ型構築物』
- 前川國男『東京カテドラル落選案』
- 横文彦『堂島再開発計画』
- 黒川紀章『箱型量産アパート基本計画』
- 菊竹清訓『池袋計画』
- 千葉大学清水研究室『東京湾天の橋立』
- 榮久庵憲司『スキーロッジ』
- 磯崎新『空中都市——渋谷計画』
- E・サーリネン
- 『TWAターミナル・ビルディング』 [アメリカ]
- L・ハルプリン『ニコレット・モール』 [アメリカ]
- 吉村順三『軽井沢の山荘』
- 『ラルシテクチュール・ドジュールデュ』
- 特集：『幻想建築』1962年6/7月号 [フランス]
- ボストン市庁舎コンペ [アメリカ]
- 磯崎新『都市破壊業KK』発表
- 川添登+真鍋博『未来都市物語』
- 京都国立国際会館コンペ
- 『都市計画と都市生活展』
- あなたの都市はこうなる』 [池袋西武]
- ★『ニューリアリッツ』展、アルマン、Y・クライン、
- J・ダイン、A・ウォーホルら出品
- [ニューヨーク、シドニ・ジャニス画廊、アメリカ]
- C・グレイ
- 『偉大なる実験：ロシア芸術1863-1922』刊行、
- 構成主義の再評価へ [イギリス]
- [文学] J・G・バラード『時間都市』『沈んだ世界』
- 『狂風世界』『時の声』 [イギリス]
- 唐十郎『状況劇場』結成
- 具体美術協会『グタイピナコテカ』開設
- ◆ キューバ危機
- 東京が世界初の1000万人都市に
- NHKテレビ受信契約者数1000万突破

(2015) 見えない都市 #パート1 #メタボリズム ピエール=ジャン・ジルー

Invisible Cities # Part 1 # Metabolism | Pierre-Jean Giloux

映像作家として活躍するピエール=ジャン・ジルーは、かつて日本で発足したユートピアの建築動向、メタボリズムに着想を得て、「見えない都市」シリーズを制作する。《パート1 #メタボリズム》(2015)、《パート2 #ジャパン・プリンシプル》(2015)、《パート3 #縮みゆく都市》(2016)、《パート4 #ステーション》(2016)の4部からなるこの作品で、ジルーは東京、横浜、大阪、奈良、京都のポートレイトを提示しながら、都市景観、または街並のあり方を問う。本展で紹介する第1作《パート1 #メタボリズム》は、革新的な建築動向、メタボリズムへの一種のオマージュといえる。1960年、評論家の川添登、建築家の大高正人、横文彦、菊竹清訓、黒川紀章、グラフィック・デザイナーの粟津潔、インダストリアル・デ

ザイナーの榮久庵憲司によって「メタボリズム・グループ」が結成された。生物学用語で「新陳代謝」を意味するこのグループは、生命が成長、変化を繰り返すように、建築や都市も有機的にデザインされるべきであるという考えのもと、画期的な建築設計、都市計画案を次々に発表した。ジルーは3Dコンピュータ・グラフィックス技術を駆使し、かつてメタボリストたちが発案したものの、実現には至らなかったメガストラクチャーを、大都市東京に見事に出現させる。東京湾内にそびえ建つのは、DNAの二重螺旋構造をモデルにした黒川紀章の《東京計画1961-Helix計画》(1961)。都心に乱立するビル群の合間には、構造物全体を空中に形成するという奇抜なアイデアの、磯崎新による《空中都市——渋谷計

